バイの養殖に関する研究 ― Ⅰ※

人工飼料に対するバイの嗜好性および餌料効果について

梶　川　　晃

本種の人工飼料に対する基礎的知見を得るため、市販のうなぎ用配合飼料を中心に嗜好性および餌料効果に関する試験を行い、次の結果を得た。

1) バイは嗜好性が強く、供試した試料で最も好むのはエビ、スルメイカ鮮魚、次いでスケトウ鮮魚、生きゴカイであり、ヒレグロ鮮魚は劣った。

2) 乾燥試料は鮮魚に比べて嗜好性は低く人工飼料とほぼ同程度であり、煮沸したものはさらに低い。
また、概して個体の大きさによって嗜好性は変わらなかった。

3) 飼育当初では摂餌は嗜好性に影響されるが、飼育期間中の日間摂餌率は、稚貝については2.06～1.30％で、人工飼料Ⅰ、人工飼料Ⅱ、エビ、ヒレグロの順であり、小型貝については人工飼料Ⅰ、ヒレグロの順であった。

4) 成長度（殻長の伸び）は、稚貝の場合0.19～0.14㎜／日でエビ、ヒレグロ、人工飼料Ⅱ、人工飼料Ⅰの順であり、小型貝の場合でも0.11～0.09㎜で人工飼料はヒレグロにも劣った。

5) 餌料効率については、生換算ではエビが最も優れていたが、乾物換算では稚貝の場合220.1～112.1％でヒレグロ、エビ、人工飼料Ⅱ、人工飼料Ⅰであり、小型貝では151.1～62.4％で、ヒレグロに比べ人工飼料Ⅰは劣った。
なお、各餌料区とも生存率は100％であった。

※　水産増殖へ投稿中。